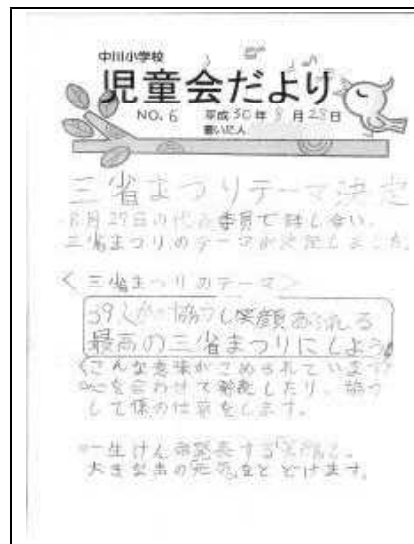


「三省まつり」のテーマが決まりました

前期後半が始まり、あっという間に8月が終わろうとしています。9月に入ると、角館のお祭り、三省まつり、三省レクなど大きな行事が続きます。そして、前期の締めくくりに力を注ぐ期間でもあります。行事についての話合いや準備、練習と学習のまとめを並行して進めていく上で大切になってくるのは、「集中力」と「気持ちの切り替え」です。「心のスイッチON! キラリかがやけ!」をしっかりと意識して取り組めるように働きかけたいと思います。

さて、右の児童会だよりにありますように「三省まつりのテーマ」が決まりました。「39人が協力し、笑顔あふれる最高の三省まつりにしよう!」です。このテーマには、①「心を合わせて発表し、協力して係の仕事をする」、②「一生けん命発表する『笑顔』と、大きな声の『元気』をとどける」という2つの意味がこめられています。練習が本格化するのはこれからですが、どの学年も「笑顔」と「元気」そして、「感謝の気持ち」を地域みなさんに届けられるように張り切って取り組んでいます。



ご協力ありがとうございました

今年は、本当に暑い暑い夏休みでした。悪天候のため中止にした日もありましたが、プール開放はほぼ予定通りできました。連日のプール通いでたっぷり水に慣れ親しんだ子どもたち。9月1週頃までは水泳学習が続きます。休み中のがんばりを残し残しとなった水泳学習につなぎ、泳力がアップしたことを水泳検定を通して実感させたいと思います。

保護者の皆様にはプール監視にご協力いただき、本当にありがとうございました。紙面を借りて御礼申し上げます。



中川っ子のがんばり

◇FC角館セレジエスタ(JFAバーモントカップ 第28回全日本U-12フットサル選手権大会)

【予選リーグ・グループG】

- G 1 FC角館セレジエスタ Jr. (秋田県)
- G 2 鳥取KFC U-12 (鳥取県) 4-1 (負) 第1試合
- G 3 鹿島アントラーズジュニア (茨城県) 5-0 (負) 第2試合 ※G3の鹿島は、準優勝
- G 4 伊敷FC (鹿児島県) 5-6 (勝) 第3試合

各都道府県から48チームが集結して8月17日から20日までの間開催された同大会。秋田県代表として出場した「FC角館セレジエスタ」は、予選リーグで3チームと対戦しました。相手は、J1リーグのチームのある都道府県のチーム。善戦しましたが、1勝2敗で惜しくも決勝リーグに進むことはできませんでした。「はじめての全国大会は、どうでしたか。」とS.さんに尋ねてみると、「関東勢のスピードと正確性に驚いた。大きな体育館だったが、あまり緊張せずに、チームとしてやろうとしていたことはできた。全国でも通用するようなプレーをするために、今後も練習をがんばっていきたい。」と力強く答えてくれました。広い世界を見てきたS.さん。今後のがんばりに期待しています。中川っ子のみんなも、目標を高くもってがんばろう! (次号では、ミニバスケットボールのみなさんのがんばりを紹介します。)

全国学力テストの結果ができました

7月31日（火）に文部科学省から、4月17日に（火）に実施された全国学力量習状況調査の結果が発表されました。この学力調査から見える中川小学校6年生の状況は、次の通りでした。

国語のA・B、理科は全国平均を上回り、算数A・Bは全国平均と同等でした。秋田県平均との比較は下の表の通りです。

	5年生の県学力量習状況調査	6年生の全国学力量習状況調査
国語	★ ★	国語A : ★↑ 国語B : ±0↑
算数	★ ★	算数A : ★↑ 算数B : ★★↑
理科	☆	★↓

【学校平均ー県平均】
 ←算数Bは、3ポイント上昇
 ←理科は、5ポイント下降

☆(★) 1個は ±0～5ポイント ☆(★) 2個は ±5～10ポイント ☆(★) 3個は ±10ポイント以上

国語A：わずかですが秋田県平均を下回りました。しかし、昨年の秋田県学力量習状況調査と比較すると、だいぶ改善されてきたと言えます。設問ごとの全国の正答率と比較すると、課題となっているのは、①「図書館への行き方の説明として適切なもの」を選ぶこと、②「物語を読んで心に残った一文を選んだ理由」を選ぶこと、③「正しい敬語の使い方」などでした。

国語B：秋田県平均と同等となり、改善が進んだと言えます。課題となっているのは、①「何を詳しく知りたくて、湯川博士の自伝の一部を読んだのか」の適切な説明を選ぶこと、②「これから言葉をどのように使っていきたいか」について示された条件に合わせて80字以上100字以内で書くこと、③「よく噛むと何がいいのか、保健室の先生の話から分かったこと」を取り入れて「『かみかみ和え』をおすすめする文章」を50字以上80字以内で書くことなどでした。

算数A：国語Aと同様に、わずかですが秋田県平均を下回りました。これも、昨年の秋田県学力量習状況調査と比較すると、だいぶ改善されてきたと言えます。課題となっているのは、①3けたの整数どうしの大きさを比べて「十の位に入る適切な数字」を書くこと、②「示された事柄が両方当てはまるグラフ」を選ぶこと、③「円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるか」を選ぶこと、④「200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%か」を選ぶことなどでした。

算数B：まだまだ課題は残されていますが、昨年の秋田県学力量習状況調査と比較するとポイント差がだいぶ縮まり、徐々に改善されてきていると言えます。正答率が全国を大きく上回ったのは10問中4問ありました。課題となっているのは、①合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として「正しいもの」を選ぶこと、②4色を順に繰り返してつなげて輪飾りを作ったときの「30番目のおりがみの色」を選ぶこと、③（事前に調べた結果のメモを基に）1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための「玉を投げる時間」を表に整理して求めること、④一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読みとることができることをまとめた文章を適切な言葉を選んで完成させることなどでした。

理 科：わずかですが、秋田県平均を下回りました。正答率が全国を大きく上回ったのは16問中6問ありました。課題となっているのは、①「流れる水のはたらき」の「堆積（たいせき）・浸食（しんしょく）・運搬（うんぱん）」という基本的な用語、②「鳥の巣の観察」の正しい方法、③「検流計の針の振れ方」から正しい結論を導くこと、④濾過（ろか）の正しいやり方などの問題でした。

昨年度の県学力量習状況調査の結果を受け、「話し合い活動」「説明する活動」「他の人の考えを読みとること」など、言語活動の充実を通して「学力量習状況の課題の解決」に向けて学力量習指導に当たってきました。徐々に成果として表れてきてはいますが、取り組むべき課題は、まだまだ少なくありません。今後も学校体制として全体的な指導や個別的な指導を続けていきます。

6年生には「個人票」をお渡ししました。一人一人の状況をしっかりと把握し、今回の結果を生かした学力量習活動を展開し、「確かな学力」を身に付けられるように指導に当たってまいります。